



Title	サブカルサブリ第21回 : 4コマ漫画アニメ化の歴史に新たな1ページ
Author(s)	山村, 高淑
Citation	埼玉新聞
Issue Date	2012-04-29
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/51151
Type	column
Note	埼玉新聞2012年4月29日版、特集「サイタマニア」、p.2
File Information	20120429Saitamania subcul suppl No.21.pdf



[Instructions for use](#)

山村高淑の

サブカル サブリ



アニメや漫画の舞台地が多いサブカル王国・埼玉。その魅力を「アニメツーリズム」の専門家、山村高淑氏が紹介する。

埼玉出身の声優・大久保瑠美さん、プリキュアシリーズの前作、『スイートプリキュア♪』の調辺アコ(キュアミューズ)役でおなじみですよね。この4月からのアニメでも大きな役をいくつか担当しているらしいです。『戦国コレクション』の『小悪魔王』織田信長、『プリティリズム・ディアマイフューチャー』の上葉みあ、そして『あつちこつち』の御庭つみぎです。ジャンルの異なるアニメの役、しかも主役級を、これだけきっちり演じ分けるとは、大久保さん、まさに今を時めく若手実力派声優さんの筆頭格です。そしてやはり注目なのは『あつちこつち』の「次世代ツンデレヒロイン」(原作出版社による表現!)の御庭つみぎ役ですね。

さて『あつちこつち』、アニメファンとしてのもうひとつの楽しみは、やはり、原作の4コマ漫画がどうアニメ化されていくか、という点です。4コマ漫画のアニメ化と言えば、古くは『ブクちゃん』(1944年アニメ映画化)や『サザエさん』(1969年TVアニメ化)。その後、様々な作品がありました。やはり2000年以降の「4コマ漫画アニメ化」の流れを方向付けたのは、いわゆる「萌え4コマ」というジャンル

4コマ漫画アニメ化の歴史に 新たな1ページ

ンを広く認知させた『あずまんが大王』でした。その後、厳密にいえばそれぞれ作風は異なりますが、美少女キャラクター、萌え系表現、日常を題材としたゆるい進行、という点で共通する4コマ漫画原作のアニメ作品群がヒットしていきます。『らき☆すた』『けいおん!』などがそうですね。敢えて単純化を恐れずに言えば、『あつちこつち』はこれら「萌え4コマアニメ」の系譜に連なる最新作ということになります。

こうした「萌え系」「空気系」4コマ漫画の面白さは、起承転結という枠に囚われない点。なので、『あつちこつち』でも何気ない日常を断片的に描きながら、ある程度のストーリーを形作ることができる。でも、ストーリー漫画のように大きなストーリーに縛られることが無いので、キャラクター性を活かした様々な表現が可能となる。こうした特徴がアニメ化する際に、利点にもなり、難点にもなるわけです。つまり、アニメ製作サイドの見せ所なんです。

4コマ漫画のファンを納得させつつ、如何に新たなアニメ作品ファンを獲得できるのか。『あつちこつち』で4コマ漫画アニメ化の新たな歴史が作られることを楽し

みにしています。

ところで、舞台になったことでその作品を応援するという地域は多いのですが、地元出身の声優さんが出演している。その作品を応援する、という埼玉のような県はなかなかありません。声優さんも地域が生んだ文化人として、その出演作を含めしっかりと応援していく。文化財からアニメまで、差別なく「文化」として捉えている埼玉県さん、さすがです。

ましてや地域の新聞がこれほどまでに紙面を割いて特集を組むなんてことは、他県では通常あり得ません(笑)。全国紙ならなおのことです。しかも、何の政治的な打算もなく、ただ単にその作品が好きだから思いっきり特集を組む。気持ち良いですし、我々他県も見ならわねばと思えます。

ちなみに、『あつちこつち』の深山佳奈役は北海道が生んだスーパースター声優・今野宏美さん(『らき☆すた』の小神あきら)。道民として応援しております(笑)!さらに、春野姫役はあの福原香織さん(『らき☆すた』の柊つかさ)。ということには『らき☆すた』ファンとしても応援したい作品ですね。